

アサガオ「恋しぐれ」ハンギング鉢用土種類の比較検討

田旗裕也・吉岡孝行

(江戸川分場)

【要 約】アサガオ「恋しぐれ」のハンギング鉢仕立て用土の検討を、赤土配合土を対照に比較した。Klasmann-Deilmann「TS-4」とタキイ「TM-2」は対照と遜色ない生育と日開花数の推移を示した。

【目 的】

近年はハンギング鉢仕立てに利用できるアサガオ品種が発表されている。そこで、ハンギング鉢仕立て用土の検討として、アサガオ以外の花き品目で使用実績がある軽量の市販用土の評価を、アサガオ鉢生産の慣行である赤土配合土を対照に行う。

【方 法】

(有)石井フラワーガーデンから「恋しぐれバイオレットブルー」と「恋しぐれラベンダー」を2019年6月14日に導入し実験に供試した。3株を寄せ植えした10.5cmポット苗を、6月17日に5寸鉢へ定植した。定植用土は、対照である赤土と腐葉土の6:4容積比配合土(「赤土配合土」)のほか、Klasmann-Deilmann社「TS-4」、タキイ社「TM-2」の3種類とした。各用土とも、基肥はマグアンプK 3 g/Lとエコロング100日タイプ2 g/Lを使用し、毎週1回20-20-20液肥をN濃度100ppmで灌水施肥した。鉢定植後の栽培管理は雨よけハウス内で行い、伸長したつるは誘引せず、放任で下垂させた。

定植後、鉢毎の開花数を毎日調査し5日間の移動平均で解析した。7月29日に主茎長と茎径を調査し、地際からの距離別に主茎・側枝の合計本数を調査した(図1)。

【成果の概要】

1. 「恋しぐれバイオレットブルー」の第一花開花日は6月下旬で、用土の影響は認められなかった。開花始以後、日開花数は日数経過とともに増加した。「恋しぐれラベンダー」は苗導入時に開花していたが、7月5日から9日までの日開花数は「TM-2」が多かった。両品種とも7月22日以降は、日開花数が顕著に増加したが、なかでも「TS-4」と「TM-2」の増加量が大きかった(図2)。
2. 7月29日に調査した主茎長は、両品種ともに赤土配合土で小さく、「TS-4」と「TM-2」が大きかったが、「TS-4」と「TM-2」の差は少なかった。また、主茎長の品種間差はなかった。茎径は、顕著な品種間差が認められたが、用土間の差はなかった(表1)。
3. ハンギング鉢仕立てした場合における、地際からの距離別の主枝・側枝合計本数は、赤土配合土に比べ「TS-4」と「TM-2」で明らかに多く、特に「TM-2」は1.5m以上の主茎・側枝長を示す個体もあり、旺盛な生育を示した(図3)。

以上の結果、Klasmann-Deilmann「TS-4」とタキイ「TM-2」は、ハンギング鉢用土として、赤土配合土以上の日開花数増加と旺盛な生育を期待できる。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 今後、用土種類に応じた灌水・施肥方法の検討が必要である。



図1 試験終了時の草姿 (2019年7月29日)

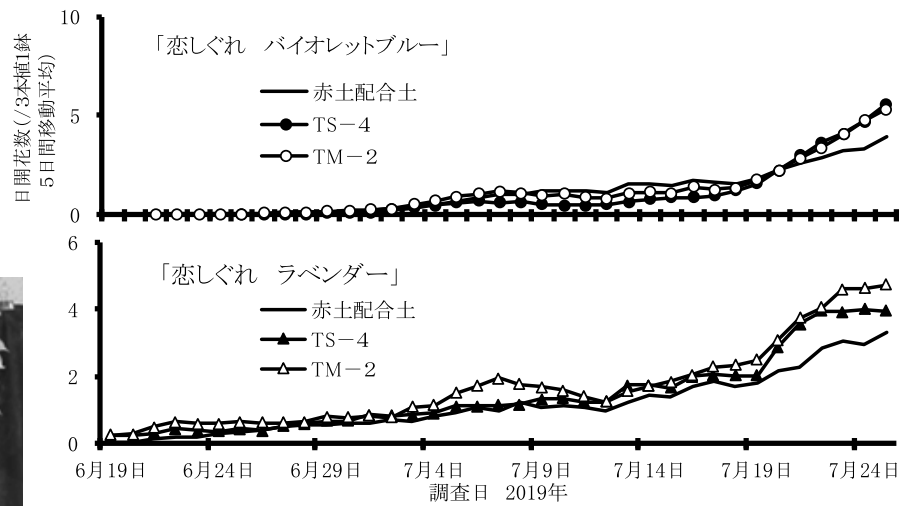


図2 アサガオ「恋しぐれ」の定植用土種類と日開花数 (5日間移動平均)

表1 数種定植用土がアサガオ「恋しぐれ」の主茎長と茎径に及ぼす影響¹⁾

品種	用土種類	n	主茎長 (cm)	茎径 (mm)
「恋しぐれ バioletブルー」				
	赤土配合土 (対照)	15	70.0	3.4
	TS-4	15	140.2	3.7
	TM-2	15	150.0	3.1
「恋しぐれ ラベンダー」				
	赤土配合土 (対照)	15	114.4	4.0
	TS-4	15	140.8	4.0
	TM-2	15	153.0	3.9
「分散分析表」 ²⁾				
品種			ns.	**
用土			**	ns.
品種*用土			ns.	ns.

注1) 3本植10.5cmポット苗を2019年6月17日に定植。7月29日調査。主茎長は鉢土表面を基準に、下垂した主茎頂部の最大長とした。

2) 「**」は危険率1%、「*」は危険率5%で対照区との有意差あり、「ns.」は危険率5%で有意差が認められないことを示す。

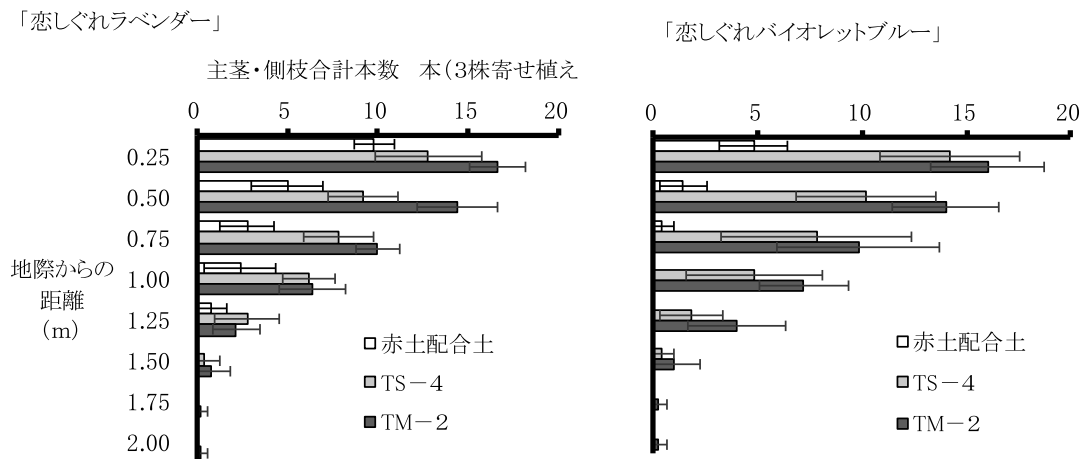


図3 アサガオ「恋しぐれ」の定植用土種類と主茎・側枝合計本数 (n=5) 上下線はSD.